

手を挙げて、自分の存在をアピール



笠郷小学校の通学路での見守り



上多度小学校での講話

町、養老警察署、養老地区交通安全協会により6月30日(木)に笠郷地区、7月11日(月)に上多度地区の交通量の多い交差点で、下校する児童の見守りを行いました。

5月に通学路上で車同士の出会い頭の事故があったことを受け、児童らへの呼びかけも繰り返し行っています。養老地区交通安全協会の西脇武敏協会長は「横断歩道を渡るときに大切なことはしっかり手を挙げて、車の運転手に対して自分の存在をアピールすることです」と自分たちの身を守るためにできることを呼びかけました。

交通マナーの再確認を



6月20日(月)にザ・ビック養老店の駐車場で、町、養老警察署、養老地区交通安全協会、JAF(日本自動車連盟)が共同で、シートベルトの着用や早めのライト点灯などを呼びかけました。JAFの協力により設置した衝突体験車でシートベルトの重要性を再確認してもらうとともに、良識ある交通マナーを実践してもらうための呼びかけを行いました。

ひとりひとりが交通ルールを理解し、守っていくことで悲惨な事故は防止できます。家族や友人、同僚などと呼びかけ合い、良識ある交通マナーを実践しましょう。

応急生活物資の安定供給のために



6月9日(木)に町と中北薬品株式会社(愛知県名古屋市)は「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を締結しました。この協定により、町内において地震、風水害、大規模火災その他の災害が発生した場合、または発生の恐れがある場合に、町が同社に対して避難所生活に必要な物資の調達要請をすることが可能となります。

同社岐阜営業部大垣支店長の中村鉦次かねつぎさんは「今後も地域の皆さまの生活に貢献できるような提案を続けていきたい」と話しました。

滝開き式、ひっそりと



7月1日(金)に養老の滝前広場において、町観光協会役員により夏の観光客の安全を祈願する「滝開き式」が行われました。一昨年や昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年も規模を縮小し、山伏姿の修験者が破魔矢を射ることや護摩供養、手筒花火などは行われず、関係者にて仏事(養老寺の徳永住職による読経と献香)のみを執り行いました。